

編集後記

■編集委員

委員長

藤 田 郁 代

副委員長

立 石 雅 子

石 田 宏 代

今 井 智 子

宇 野 彰 準

勝 木 美 子

熊 倉 勇 子

倉 内 紀 子

小 林 範 子

城 間 将 江

鈴 木 恵 子

関 啓 子

玉 井 ふ み

深 浦 順 一

矢 守 麻 奈

米国におけるサブプライム・ローンの破綻に端を発し、世界は百年に一度といわれる経済危機に見舞われています。現代人のほとんどは、前世紀初頭の経済恐慌を実体験として経験していませんので、不安な空気が蔓延していますが、新しい価値観やシステムが創り出されるのはこのような混沌の中からであり、今は「時代の変わり目」なのかもしれません。

言語聴覚障害学分野を振り返りますと、IALP や ASHA が設立されてからまだ80 年余であり、わが国に眼を転じますと言語治療を専門とする職種が見られるようになってから40 年余しか経過していません。この間のエポックメイキングな出来事は言語聴覚士の国家資格化に伴い、日本言語聴覚士協会が発足し、学術・職能活動が組織的に行われる場が成立したことです。このように、本分野は今後の成長や拡大が期待される若い分野であり、現在はその礎を築いている段階といえるでしょう。これを臨床面でみると、言語聴覚療法のエビデンスの蓄積を進めている段階といえます。

米国医療政策研究局(AHCPRR)の基準によると、エビデンスのレベルは高い順から、RCT(ランダム化比較研究)のメタ分析/RCT/よくデザインされた非ランダム化比較実験/よくデザインされた非実験的記述研究(準実験的研究、比較研究、相関研究、症例研究など)/専門家委員会の報告や意見など、となります。コミュニケーションのように多数の要因が関係する複雑な行動を対象とし、倫理的配慮が重要な研究を実施する場合、RCT のような研究は多くの困難を伴います。本誌は、よくデザインされた研究であるならば、さまざまなタイプの研究を掲載し、言語聴覚療法のエビデンスの蓄積に貢献したいと考えています。

(藤田郁代)

言語聴覚研究(第6巻 第1号)2009年3月15日発行

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

編集・発行：日本言語聴覚士協会(会長：深浦順一)

〒160-0022 東京都新宿区新宿2-5-16 霞ビル801

(☎03-6412-9853 FAX 03-6412-9854) <http://www.jaslht.gr.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Kasumi-Build. #801, 2-5-16 Shinjuku Shinjuku-ku, Tokyo, 160-0022, Japan

©2009, Printed in Japan

制作・発売：(株)医学書院(代表：金原 優) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23(振替口座00170-9-96693 番)

販売部直通 ☎03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)医薬広告社 ☎03-3814-1971(FAX 03-3814-8915)